

大阪支部の強み？ — 大阪支部 50 周年記念に寄せて —

京都支部 塩貝 光生

2010 年の京都大会の準備過程で、夏大会の実践報告をどの支部がどれくらいになっているかを調べたことがきっかけで、2019 年和歌山大会まで毎年の提案を蓄積してきた。右の一覧表は 11 年間の上位 10 支部。大阪支部はダントツの 116 本。基調提案や研究報告も含んでいるが平均しても毎年 10 本レポートされている。この背景に何があるのか私なりに大阪を見てみた。

実践を支えている 1 つは、7 つのブロック研究例会と支部研究大会。2 つは課題別研究プロジェクト。3 つは支部を支える機関会議と支部ニュースであろう。

身近なところで身近な授業実践を仲間が集まって協同研究することが、府下の各地域に定着していることが大きい。そこには各ブロックの苦労があるだろうし、ブロック毎にそれぞれの役員が荷を分かち合っていて進めているのだと思う。世代交代もしながら粘り強く進めてきたのだと思う。そして、会員の学校を最大限利用して開いていることも重要な要素だろう。そして、これらの日常研究を支部例会でも交流しつつ、大阪支部大会として総合的に持ち寄り、会員外の方々にも広める場として毎年積み上げていること。これらは、他人に呼びかけ、足を運んでもらい、一緒にその人の悩みや課題により沿い、協同して考える取り組みで、その取り組みそのものが授業で子どもたちを組織する手順に生きてきたのではないだろうか。

課題別プロジェクト研究で、会員の教材別関心のある分野毎に研究を継続していることが、これらの地域例会を内容的にリードしているのだと思う。グループ学習プロジェクト、健康教育、ヴィゴツキー発達研究、幼年体育、球技、障害児体育。少人数であるけれど、課題の継続的研究が根付いていることが、実践・研究内容をリードしていく上で有効な働きをしてきたと考える。この他にも、ポドテキスト作り、競争研究、部活動実態調査など、期間集中的な取り組みも忘れることが出来ない。

そして、こうした日常の支部活動を下支えしている支部役員の組織性が重要だ。5 役会議と常任委員会が定期的に関われ、課題を整理し大阪支部ニュースにまとめて周知する取り組みがたゆまず積み上げられていること。これらが大阪支部の強みだと思う。70 年代の中頃だったか、関西近畿ブロック集会の打ち合わせに、草深氏とともに天王寺商業高校の体育教員室へ行った。会議の内容は今となっては覚えていない。帰りに桃谷駅近くの居酒屋「がんこ」によって帰ったのを覚えている。当時、夜の会議後は必ず飲み会がセットだった。京都の例会や役員会の後も飲み会に寄った。会議や例会で学んだこともさることながら、飲み席での話題の中に、授業や研究のヒントになることがたくさんあった印象がある。

最後に、ひとつお願いをする。中・高校会員を増やすことによって、12 年間を見通した実践的な教育課程を展望できるようにしてほしい。

11 年間の合計

支部	レポート数
大阪	116
東京	68
兵庫	43
宮城	38
埼玉	37
愛知	32
京都	32
広島	29